

### 熱塩小学校一～四年生の遠足



### 第2号

令和五年五月二日ピクト一  
子どもたちの歓声であふれます。熱塩小一  
年生から四年生までの十五人が遠足で鷺田

ピクト一を訪れました。

何で熱塩小の遠足？

地元を知らずに育つことへの危惧からまず  
は足を一と一ことで鷺田行政区のピオ  
ト一に白羽の矢が立てられました。

「旅行は遠くへ行かないと」

「近場は、いつでも行けるから」

確かにそうかもしれない・・・

ただ、燈台下暗しとも言います。

地元地域の良さを知った上で都市部の学校に  
通い、企業に勤めて欲しい：子どもの頃に  
味わった自然、そこには地域のすばらしさが  
残るはずです。

今回、絶滅危惧種の

コシラゲンゴロウを

ゲットした子は必ず

戻ると信じています。

なので、お持ち帰り

していただきました。

わずか、一センチの小さな命。

子どもたちがそこから受け取るものはとても

とても大きな財産だと感じています。

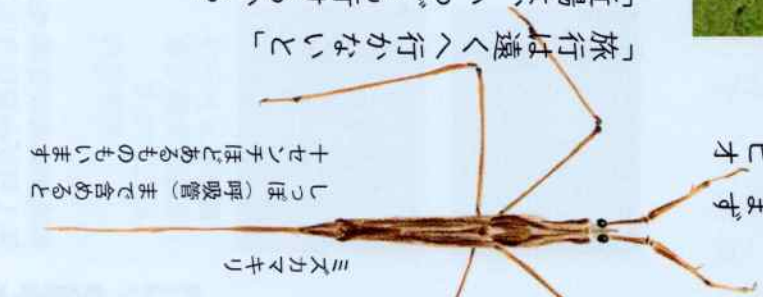
※コシラゲンゴロウ、コオイムシは地域により絶滅危惧種



15人の児童が遠足でピクト一へ  
今回ゲットしたのは、  
コシラゲンゴロウ、コオイムシ、ミ  
ズカマキリ、コガムシ、ヤゴ（シオ  
カラトンボ、イトトンボ）、シオカ  
ラトンボ、ミスムシ、アメンボ...



落水者はわずか2  
名。遊びまくった  
後はみんなが楽し  
くお弁当を食べて  
帰校しました。



ミスカマキリ

しっほ（呼吸管）まで含めると  
十センチほどあるものもいます

不安定な天気が心配でしたが、子どもたちが  
到着する頃にはお日様が顔をだします。

## 鷺田行政区「堰ざらい」

五月三日、鷺田行政区の地域年中行事の

「堰ざらい」が行われました。

鷺田組では

「つかまえた水中生物をどうしよう？」

と毎年悩んでいたそうです。

そこに鷺田ビオトープが名乗りをあげます。

昨年七月の鷺田水路と生きもの調査に続き、

今回も水中生物の移住です。



オニヤンマのヤゴ、子どもの手に乗せるとデカい！

この写真は作りものではなく、れっきとした「ヤゴ」です。

手前はオニヤンマ、奥がおそらくシオカラトンボです。オニヤンマはまさに重量級。

ところで、トンボは大きく、

ヤンマ

サナエトンボ

の2種に分けられます。

区分けはめっちゃ簡単で、両方の眼がくっついていればヤンマ、離れていればサナエトンボです。



鷺田ビオトープにやってくるトンボはギンヤンマ、オニヤンマ、アカネ系、イトトンボ系、オツネトンボなど多種。

昨年見つけたコオニヤンマは眼が離れているサナエトンボなのに小さなオニヤンマと似ている意味で「コオニヤンマ」と別科の名前が付けられています。

真っ赤なのはシヨウジヨウやナツアカネであり真っ赤ではないのがアキアカネ。

先月良く見られたオツネトンボ（漢字で書くと「越年蜻蛉」）は、成虫の姿でこの寒さと大雪を乗り切ります。

熱塩小の遠足の日に飛んでたトンボ、翌日の堰ざらいの後にとっ捕まえて検証してみたら、メスのシオカラトンボでした。

トンボは世界中に5千種、国内に二百種いるそうです。これから何種類がみつかるのでしょう？ 楽しみですね。



コシヌゲンゴロウの実際の大きざ 9〜11mmほど

さまざまな生きものが暮らす

ビオトープ

これからも皆様のご協力でご協力を自然を見つめる子どもたちの遊び場になってほしいと願っています。



ガムシ(牙のある虫で牙虫) 2cm 弱の「コガムシ」はたくさんいます。身長4cmを超えるガムシにはなかなか出会えません。 昨年9月



鷺田ビオトープを我がが物顔で飛ばキンヤンマ 昨年9月

※イラストは有志による色鉛筆画です

鷺田ビオトープ通信 第2号  
熱塩加納未来会議ビオトープ部  
編集協力 熱塩加納 森田組  
2023年5月15日 発行



熱塩加納未来会議(森田組) <https://mirai.nowdo.com>  
第1号が必要な方はご連絡いただけます。